

行政 視 察 報 告 書

令和 7 年 10 月 6 日

会派名 江南新風クラブ
会派代表者 伊藤 吉弘

参加者：宮地友治、稻山明敏、伊藤吉弘、

尾関 昭、藤岡和俊、牧野行洋

行政視察の結果について、次のとおり報告します。

| | |
|-------|---|
| 年 月 日 | 令和 7 年 8 月 26 日（火） |
| 視察時間 | 8 月 26 日（火） 13 : 00 ~ 15 : 00 |
| 視察場所 | 石狩市民図書館 |
| 視察内容 | ・地域公共交通「いつモ」について ・石狩市民図書館ビジョンとその取組について |

■目的

石狩市の地域公共交通「いつモ」における AI デマンド交通の取組と、「図書館の中に街を作ろう」をコンセプトとした図書館運用について知見を深めるため

■内容

- ・地域公共交通について（石狩市企画政策部企画課 交通担当）
 - ①オンデマンド交通の実証運行の経緯と結果、リニューアルされ本格運行している AI デマンド交通「いつモ」について
 - ②デジタル技術を活用した公共交通に関する情報発信機能の状況と MaaS への取組状況について
 - ③公共交通の利用促進に向けた取組方法と成果について
 - ④高齢者や地域における移動手段の確保、地域バス・自家用有償旅客運送の維持・確保の状況と問題点について
 - ⑤市民連携事業による新たな軌道系交通の導入可能性調査の結果と今後について
 - ⑥地域公共交通計画の展望について

国交省管轄の先端モデルとして事業費のうち半額は国で補助され、令和 6 年度は、費用 9,500 万円のうち 4,200 万円が国の補助。運転収入は 700 万円。先端モデルとして手を上げ、勤務先が多い札幌市が隣にあることが、利用者増加やサービス拡大に大きい。

タクシー運営は、地元タクシー 2 社と協力し、常時 3 台用意してもらっている。ピーク時に 2 台用意できるように依頼している。

公共交通空白地の厚田区において、地元有志で運営する NPO が運営する巡回バスを走らせる。費用は、地区の会費で賄われており、市の補助金はない。

デマンドタクシーの利用者の 3 分の 2 は、札幌市や工場地帯への通勤利用で、利用者は多い。予約は電話かウェブで行い、定額で利用でき、免許返納者には割引で利用できる。

今後は、国の法律の整備を待ち、公共のロープウェイ使用を予定。これでより利用者のニーズを満たしたい。

- ・石狩市民図書館ビジョンとその取組（石狩市民図書館 副館長）
 - ①5周年の歩みについて（概要）
 - ②石狩市民図書館ビジョンの構成とめざすものについて
 - ③学校図書館の取組を中心に、石狩市民図書館ビジョン「1 こどもの学びを支援する」に掲げる各関連事業について
 - ④利用者同士の交流や学習機会の創出を中心に、石狩市民図書館ビジョン「2 蔵書を充実し市民の生涯学習を支援する」に掲げる各関連事業について
 - ⑤石狩市民図書館ビジョン「3 市民の誰もが利用できる環境を整備する」に掲げる関連事業の状況、市民からの声や反応について
 - ⑥石狩市民図書館ビジョン「4 サービスを支える基盤を整備する」に掲げる関連事業の状況について（協働による事業展開を中心に）

人口5万7,000人に対して、25周年を迎える図書館は、年間19万人の利用者がおり（過去最大は30万人）、蔵書数は30万冊を誇る。

図書館には、共同コーナーとして石狩市の象徴である鮭について詳しい本がたくさんある。市の伝統の継承と顔の発信に役立っている。

子供たちの読書意欲発達のため、各学校の読書に積極的に関わり、電子図書の拡充や中高生向きのボードゲームを利用している。

また、江南市の新図書館のように、読書だけでなく、勉強や文化活動の中心地になっており、沖縄文化などを紹介するコーナーもある。

■所感

○オンデマンド交通「いつも」について

先端モデル都市として名乗りを上げ、試行錯誤が行われた経緯や、地域の有志による巡回バスの運営、また、地元タクシー業者の協力が重要ということが良く分かり、今後の江南市の公共交通を考えるうえで、とても参考となった。

○石狩市民図書館ビジョンとその取組について

図書館の運営を読書と勉強の場という枠を超えて、市の文化・歴史・伝統を発信し醸成する場、人が集い、賑わう場となっている点が非常に参考となった。